

# 「生きる力」をはぐくむ家庭科教育

## －生活の自立を目指した指導と評価の工夫－

指導主事 竹 川 春 美

Takegawa Harumi

### 要 旨

男女共同参画社会の推進、高齢社会の到来など社会の変化が著しい。このような社会状況の中で、男女を問わず生活の自立に必要な能力をはぐくんでいくことが大切である。

本研究では、中学校技術・家庭科における生活の自立に必要な能力のうち、衣生活に関して手縫いの基礎的な知識と技術を習得させるための題材の開発を行い、生徒自身将来にわたって活用できる「基礎縫いハンドブック」の作成を行った。

キーワード： 生きる力、手縫いの基礎、基礎縫いハンドブック、自己評価

### 1 はじめに

中・高校生の服装を見ると、ファッションに強い関心をもち服や色のコーディネートにも若者独特のセンスを取り入れている。また、ファッション雑誌も多く出回り、それらの雑誌に掲載されている商品が手軽に購入できるようになってきている。

しかしその反面、衣服を安価にそして気軽に購入できることから、家庭で衣服製作をすることはもちろんのこと、服を繕ったり寸法を直したりすることはほとんどなくなってきた。

また、学校においても授業時数の減少により、衣服製作に充てる時間が十分に取れない現状の中で、業者から販売されている基礎縫いの教材を活用している学校が多く、その教材を作って事足りりというような感がある。そのため、その教材製作を通して、果たしてどれだけ将来的に役立つ技術が定着したかということには大いに疑問が残る。

このような状況から、与えられた教材を縫うだけでなく、身に付けた手縫いに関する基礎的な知識と技術がこれからの生活の中で生きる力となるようにすることが大切であると考えた。

### 2 研究目的

手縫いに関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けさせるために、自己評価や個人内評価などを効果的に取り入れながら、将来にわたって活用できる教材の開発を行う。

### 3 研究方法

- (1) 技術・家庭科で育成したい資質・能力の考察
- (2) 小・中・高等学校家庭科の関連の考察
- (3) 評価の工夫
- (4) 題材「基礎縫いハンドブック」の指導と評価の計画

## 4 研究内容

### (1) 技術・家庭科で育成したい資質・能力の考察

現在わが国では、男女共同参画社会の推進、少子高齢化など社会の変化が著しい。少子化については、合計特殊出生率（15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもの）が2004年には1.29となった。高齢化については、2015年には高齢化率26.0%、2050年には35.7%に達し、国民の3人に1人が65歳以上の高齢者という本格的な高齢社会になるといわれている。

このような社会状況の中、特に高齢社会を生き抜いていくためには、男女を問わず誰もが生活的な自立能力をもつことや男女及び世代間で互いに協力し支え合って生活する基盤や生活観を醸成しておくことが重要である。

技術・家庭科では教科の目標にも示されているように、社会がどのように変化しようとも変わらない不変の部分を大切にしながらも、社会の変化に適切に対応できる資質や能力を育成していかなければならないと考える。すなわち、生活の自立に必要な基礎的な知識や技術を基に、将来にわたって変化し続ける生活に適切に対応できる能力、特に意志決定能力や問題解決能力の育成が重要になってくる。

### (2) 小・中・高等学校家庭科の関連

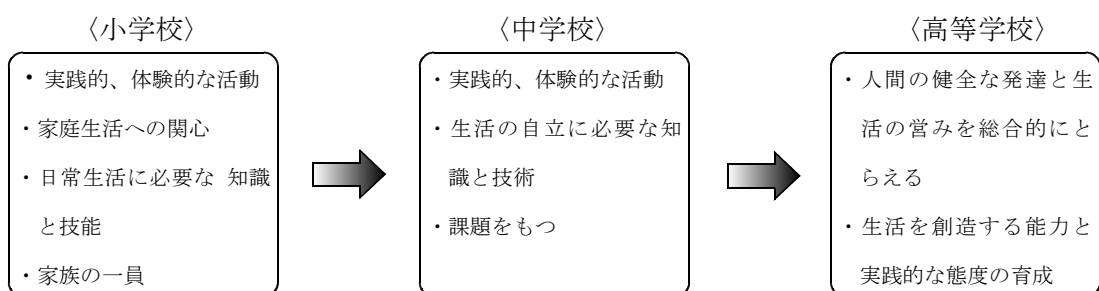
小・中・高等学校家庭科の時間数が削減されている中で、効果的な指導を行っていくには小・中・高等学校家庭科の関連を把握しておく必要がある。

ともすれば、小学校で学習したであろう内容が中学校でも学習されていたり、中学校で学習したであろう内容を高等学校でも学習されていることが少なくない。

繰り返し学習することによって知識や技術は身に付いていくものであるが、ただ単に同じ内容を繰り返すのではなく、学習内容を系統立ててやさしい内容から難しい内容へと発展させて学習させていくことが必要である。

#### ア 各校種における家庭科の目標

小学校、中学校、高等学校における教科の目標が、どのように系統立てられているかをキーワードで示す。



小学校段階では、ふだん何気なく過ごしている家庭生活に関心をもたせることから始まり、自分は家族や地域の人々に支えられているということに気付かせ、その中で自分にできることを考えさせる。そして、家族の一員として自分にできることをしていくための知識や技能の習得を目指す。

中学校段階では、このことを発展させ、生活の自立に必要な知識と技術を習得させ、課題をもって生活をよりよくしていこうとする能力と態度を育成する。

高等学校では、衣食住などの家族や生活の営みを点でとらえるのではなく、人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえさせ、将来的に家庭を営んでいくために必要な知識や技術の習得のみならず、生活を創造していくための能力と実践的な態度の育成を目指している。

イ 小・中・高等学校家庭科における衣生活に関する内容

衣生活に関する学習内容を、小学校・中学校・高等学校に分けて整理した（表1）。

表1 小学校・中学校・高等学校家庭科における衣生活に関する学習内容

小学校	中学校	高等学校（家庭総合）
〈日常着の着方〉 ・保健衛生上の着方、生活活動上の着方	〈衣服の選択〉 ・社会生活上の着方、個性を生かす着方	〈人間と被服〉 ・被服の機能と着装 ・人間と被服のかかわり
〈日常着の手入れ〉 ・手洗い	〈日常着の手入れ〉 ・被服材料、布の性質 ・アイロンかけ ・しみ抜き ・電気洗濯機を用いた選択の方法と特徴	〈被服材料の性能と特徴〉 ・被服材料の性能と取扱い上の特徴 〈被服整理と衣生活の管理〉 ・洗剤の働き ・湿式洗濯と乾式洗濯の特徴 ・組成表示、品質表示、取扱い絵表示
〈生活に役立つものの製作〉 ・製作計画を立てる ・手で針に糸を通す ・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ミシン縫い、ボタン付け ・裁縫道具、アイロン、ミシンなどの安全な取扱い方	〈補修〉 ・まつり縫い、ミシン縫い、スナップ付け 〈衣類の再利用〉 ・リフォームの計画	〈被服の構成と製作〉 ・立体構成と平面構成 ・被服の製作（「衣服」を中心として）
	【選択】 〈簡単な衣服の製作〉 ・衣服の構成 ・採寸、型紙の選択、裁断、本縫い、仕上げ ・基礎的な縫製技術	

縫製の技術については、手縫いの基礎とミシン縫いについては小学校、中学校を通して児童生徒に身に付けさせたい力である。

小学校では、5年生ではじめて学習する家庭科に対する子どもたちの関心や期待は極めて大きい。しかし、学習を進めていくにしたがって、実習の中でも特に縫製に関する実習に関しては、縫製技術に自信を失う児童生徒が増加すると考えられる。これは、自らが身に付けている技術と製作物との対応がうまくいかず、「やってもできない」「仕上がっても使えないかもしれない」「楽しくない」と自信や意欲をなくしているのではないかと推察される。そこで、児童が意欲をなくさず、やればできるという成就感がもてるような題材を考えていく必要がある。

中学校の技術・家庭科では、「A生活の自立と衣食住(6)簡単な衣服の製作」を選択しなければ衣服製作はできないが、この項目を選択しなくても生徒が興味・関心をもって取り組むことができ、生活に生きてはたらく縫製の技術を身に付けさせることができる題材を工夫する必要がある。

(3) 評価の工夫

ア 自己評価

最近、様々な学習場面で自己評価が取り入れられている。しかし、ただ単に児童生徒に授業の感想などを書かせ、教員が学習に対する児童生徒の取組状況を把握するためだけに活用されているだけでは自己評価の意味をなさない。

自己評価というものは、児童生徒が学習の目標に照らして学習活動を振り返ることによって、次の学習活動へと繋げ自分を高めていってこそ、本来の意義がある。

自己評価力を育成するためには、自己評価が単なる学習活動の感想に終わらないように、教員が自己評価の目的を明確に児童生徒に示すとともに、自分の学習の方向性を意識化させ、自分自身の学びや活動のめあてを具体的に明らかにするような評価カードの工夫が求められる。

さらに、評価カードの工夫のみならず、教員がこの自己評価を通していかに生徒にかかわっていくかということが、学習活動を効果的に進めていくために、重要である。教員が、生徒の自己評価に対して適切なコメントを丁寧に返していくことによって、児童生徒に自己肯定感が生まれ、学習に対する意欲が高まっていく。

#### イ 個人内評価

基礎的・基本的な知識や技術は、児童生徒が学習に対する意欲をもち積極的に学習に取り組むことによって定着していくと考えられる。しかし児童生徒の学習状況を見た場合、既存の知識や技術、理解の仕方や考え方などに一人一人違いが見られることが多く、どの児童生徒にも一律に同じような言葉掛けや支援をしていたのでは十分に生徒の学習意欲を高めることはできない。

そこで教員は、一人一人の児童生徒の学習状況を把握し、児童生徒が学習によってどのように進歩したのか、成長したのか、あるいは、もっとどのような点に努力が必要なのかを見取り、そのことを適切に児童生徒にかえしていくことが大切である。

そのことにより、児童生徒は自分のよさに気付いたり、次の課題を確認したりして目標をもって学習しようという意欲が高められると考えられる。

この個人内評価を行う際に気を付けなければならないことは、生徒のよさや成長した点を積極的に評価しようとするあまり、「ほめる」ことのみが優先してしまわないようにすることである。大切なことは、その児童生徒の目指すものは何か、教員はその生徒にどのような力が付くことを求めているのかということをしかりと把握した上で評価を行っていくことである。

#### (4) 題材「基礎縫いハンドブック」の指導と評価の計画

このハンドブックを見れば手縫いの基礎が分かるという将来的にも活用できるハンドブックを作成することを通して、手縫いの基礎であるなみ縫いやまつり縫い・半返し縫い・スナップ付けなどの技能を身に付けさせたい。

また、ハンドブックのワークシートには、自己評価欄や教員からのアドバイスの欄を設けることにより、生徒が学習に意欲的に取り組むことができるように工夫した。

#### ア 「自分らしく清潔に着る」(全11時間)

- ① 日常着の活用 2時間
- ② 日常着の手入れ 7時間(題材「基礎縫いハンドブック」全5時間)
- ③ これからの衣生活 2時間

#### イ 題材「基礎縫いファイル」(全5時間)の目標

- ハンドブックを活用しやすいようにまとめている。(関心・意欲・態度)(工夫・創造)
- なみ縫いやまつり縫い、ボタン付け、スナップ付けなどができる。(技能)
- なみ縫いやまつり縫い、ボタン付け、スナップ付けなどの方法を理解している。(知識・理解)

#### ウ 題材の評価規準及び具体例

	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し創造する能 力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての 知識・理解
ご内 と容	衣服の着用、選択、手入れ について、関心をもって学	衣服の着用、選択、手入れに ついて課題を見付け、その解	衣服の着用、選択、手入れに 関する基礎的な技術を身に付	衣服の着用、選択、手入れ に関する基礎的な技術を身

の の 評 ま 価 と 規 ま 準 り	習に取り組み、衣生活をよ りよくしようとしている。	決を目指して工夫している。	けている。	に付けている。
評題 価材 規の 準	・衣服材料に応じた日常着 の手入れや補修について、 関心をもって学習活動に 取り組んでいる。	・補修の箇所に応じて、補修 の方法を工夫している。	・補修の目的と布地に適した 方法で衣服を補修すること ができる。	・補修の目的と布地に適し た方法を理解している。
学 具 習 体 活 の 動 評 に 価 お 規 け 準 る	①簡単な衣服の補修に関心 をもっている。 ②どのようなところで、ど のような縫い方がされて いるか、関心をもって調 べようとしている。	①知識や技能を生かして、補 修の方法を自分なりに工夫 している。	①補修の目的と布地に適した 方法で衣服を補修すること ができる。 ②まつり縫いやミシン縫い、 ボタン付け、スナップ付け ができる。	①補修の目的と布地に適し た補修の方法を理解して いる。 ②まつり縫いやミシン縫い、 ボタン付け、スナップ付 けなどの方法を理解して いる。

## エ 題材の指導と評価の計画

基礎・基本を定着させるためには、指導と評価を一体化させていくことが必要である。すなわち、この題材でいえば、なみ縫いやまつり縫いなどの基礎縫いができているかどうか、その都度実習の様子を観察しながら評価を行い、できていなければ再度分かりやすく説明をしたり、できた生徒にミニ先生と称して指導の補助をさせたりするなどして技術や知識の定着を図っていく必要がある。

また、基礎縫いハンドブックに自己評価を取り入れることにより、自分の学習を振り返らせるとともに、教員からの励ましやアドバイスを参考にしながら、次の実習への意欲をもたせたい。そして、最終的には将来的に活用できるように自分の課題ももたせながら、見やすく作成することも評価の一つにしたい。

	◎ねらい ○学習活動	評価規準との関連	評価方法等
1	◎被服の各部分に適した縫い方を知る。 ○制服の各部分でどのような縫い方がされているか調べる。	アの②	・ワークシートの記入内容で確認する。 ・授業での観察
2	◎まつり縫いやミシン縫い、スナップ付け、ボタン付けなどができる。	イの① ウの②	・ワークシートの記入内容で確認する。
3	○基礎縫いハンドブックの製作を通して、縫製の基礎を身に付ける。	エの① エの②	・出来上がったハンドブックの内容で確認する。 ・ペーパーテストで確認する。
4	◎身に付けた基礎縫いを使い、家庭で補修を行う。 ○基礎縫いを用いて、補修の実践を行い、技術の定着を図る。	アの① ウの①	・ワークシートの記入内容で確認する。

## オ 「基礎縫いハンドブック」のワークシートの工夫

ハンドブックを通して自分の学習を振り返り、次の学習への意欲付けとなるように、自己評価欄を設けるとともに、教員のアドバイスなどが得られるようにワークシートの工夫を行った（図1）。

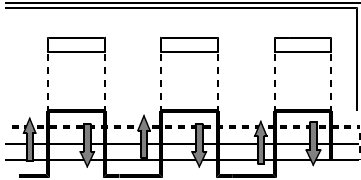
自己評価欄を設けることによって、実習をして終わりではなく、自分で実習を振り返ることにより自分の学びが確認でき次の課題が見えてくる。

また、教員のアドバイスや個人内評価を受けることによって、次の課題への意欲付けができる。

**なみ縫い**

☆衣服のどの部分に、なみ縫いが使われているか調べてみよう！

☆なみ縫いの仕方



○二枚の布を表裏同じ針目で、まっすぐに縫う。

☆なみ縫いの見本

☆実習の成果

★ふり返ってみよう！

縫い目の間隔が3～4mmである。	4	3	2	1
縫い目がそろっている。	4	3	2	1
玉結びがきれいにできている。	4	3	2	1
玉どめがきれいにできている。	4	3	2	1

(4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった)

なみ縫いをして、わたしの課題は、

なみ縫いのポイントはこれだ！

※先生からひとこと！

図1 「基礎縫いハンドブック」のワークシート

## 5 研究のまとめ

家庭でミシンを使う機会がほとんどなくなってきたことはもとより、裁縫道具を出して何かを作ることや繕いものをするというようなことが減ってきている。その反面、環境に視点をおいたリサイクル小物の製作や衣服のリフォームなどに関する書籍や雑誌が多く出回り、様々な作品を製作している人も増えてきている。

誰もが衣服製作ができるような技術を習得することは望まないまでも、将来何かを製作したい時などに困らないような基礎的な技術を身に付けさせておくことが必要であると思う。

今回のこの題材で作成した「基礎縫いハンドブック」は、手縫いに関する基礎的な知識や技術の確実な定着を図るのみならず、将来自分で何かを製作するときの自分用の参考書になることも期待している。

### 参考・引用文献

- |     |           |                             |       |      |
|-----|-----------|-----------------------------|-------|------|
| (1) | 日本家庭教育学会  | 家庭科の21世紀プラン                 | 家政教育社 | 1997 |
| (2) | 町田万里子     | 共につくる家庭科授業                  | 不昧堂出版 | 平13  |
| (3) | 国立教育政策研究所 | 学習評価の工夫改善に関する調査研究           |       | 平16  |
| (4) | 奈良県立教育研究所 | 研究プロジェクト報告書中学校における評価方法の工夫改善 |       | 平15  |
| (5) | 内閣府       | 高齢社会白書 平成16年版               |       | 平16  |
| (6) | 内閣府       | 少子化社会白書 平成16年版              |       | 平16  |
| (7) | 文部省       | 小学校学習指導要領解説—家庭編—            | 開隆堂   | 平11  |
| (8) | 文部省       | 中学校学習指導要領解説—技術・家庭編—         | 東京書籍  | 平11  |
| (9) | 文部省       | 高等学校学習指導要領解説—家庭編—           | 開隆堂   | 平12  |